

No.32号

# 社教連会報

発行 社団法人 全国社会教育委員連合

〒100 東京都千代田区霞が関3-2-3  
国立教育会館内 Tel 03-3580-0608

## 生涯学習振興の課題

文部省生涯学習局長

前畑 安宏

「生涯学習」という言葉が用いられるようになってから、既に長い時間が経過し、社会的にも定着してきたように思われる。「国立大学協会」の会報にも、岐阜大学長の新藤晃先生が「高齢者社会と生涯教育」というエッセーを寄せられていた。誠にありがたいことである。そのエッセーによると、国立大学協会に生涯学習特別委員会が設けられ、「国立大学が生涯学習に果たす役割」について検討が進められているとのこと、私どもとしても、その成果を大いに期待しているところである。しかし、今なお、「生涯学習」あるいは「生涯学習の振興」という言葉の内容については、それぞれの立場もあつてか、いろいろな受けとめ方があつるように思えてならない。

私どもとしても、「生涯学習の振興」という観点からの取り組みについて、改めて考え直す必要があると反省している。

周知のとおり、生涯学習局の設置

は、臨時教育審議会の答申を契機とするものである。同答申では、「生涯学習体系への移行に積極的に対応するという観点から、社会教育局を生涯学習を専ら担当する局に改組・再編するなど文部省の組織体制の整備を図ることが不可欠である。」と述べられている。そこで、「生涯学習体系への移行」についての臨教審の考え方を見ると、その第二次答申において、

第一に、「どこで学んでも、いつでも、多面的に人間が評価されるように人々の意識を社会的に形成していくことである」、第二に、「様々な学習活動を活性化し、学校外の教育機会を整備することである」、さらに、「学校や研究機関は、……社会との連携・協力を進め、社会人を積極的に受入れていくことである」と述べられている。

この三点についての現状を見ると、まず、「様々な学習活動を活性化し、学校外の教育機会を整備すること」に

ついては、当社会教育委員連合を初め、関係各位の御尽力により、かなりの成果があがっていると思われる。また、「学校や研究機関は、社会との連携・協力を進め、社会人を積極的に受入れていくこと」については、例えば、大学の社会人特別入試も大学関係者の理解を得て着実な進展を見ているところであり、大学の公開講座も地域との連携・協力を考えながら進められるようになってきている。

問題は、答申で第一にあげられている「どこで学んでも、いつ学んでも、学習の成果が適切に評価され、多面的に人間が評価されるように人々の意識を社会的に形成していくこと」にある。大学審議会の答申に基づく大学設置基準の改正により、技能審査の学習など、いくつかの大学外の学習を大学の単位に認定できる途は開かれた。しかし、検討すべき課題は、多々残されている。例えば、大学の公開講座、さらには地方自治体が実施する社会教育講座の学習成果を大学の単位に認定できるような仕組みはできないか、また、社会教育主事・図書館司書・学芸員の資格を社会教育講座の学習で取得できるような仕組みにできないものか、なども検討課題である。

今後の行政の課題は、この生涯学習の成果の適切な評価の問題について、積極的に取り組むべきことにあると考えている。関係各位の御理解と御支援を切に願います。

## 第34回全国社会教育研究大会を終えて

二十一世紀を見据えた幕張新都心構想、東京湾横断道路の建設、房総リゾート地域の整備が進む千葉県に、全国各地から千七百名を超える方々を迎え、第三十四回全国社会教育研究大会を十一月十一日から十三日までの三日間開催しました。

会場となった千葉市は、この四月に全国第十二番目の政令指定都市となっただけです。

近年の技術革新の進展、高齢化、情報化、国際化などによる価値観やライフスタイルの変化に伴い、人々の学習意欲は今までも増して、多様化、高度化しております。

こうした折、国では七月には生涯学習審議会の答申が出され、さらに九月からは学校教育百二十年の歴史の中で、画期的ともいえる「学校週五日制」が実施されました。

こうした国の動向を踏まえ、「新しい課題に対応する社会教育の在り方を考える」を研究主題に、この大会が成功裡に終了したことは、大変意義のあることだと思えます。

社教連の天城会長は、開会行事の中で、次の二点について指摘されました。一点目は、学校週五日制に対する論議の中でしばしば使われている「受け

皿」という言葉の解釈についてです。学校外での子供の生活は、多種広範囲にわたるものであり、もつと地域や社会、家庭を魅力あるものにし、生涯学習のスタートとして、青少年教育に新しい関心を示し、さらに協力していく必要があるからではないかと思えます。

二点目は、「ボランティア活動」についてです。福祉活動をはじめ広い領域で展開されているボランティア活動を、社会教育の活性化のために、もう一度考えていきたいと述べられました。開会行事に続いて行われたシンポジウムでは、千葉大学の明石助教授（千葉県社会教育委員）の司会のもと、「学校週五日制と生涯学習」をテーマに、今後の方向性を示唆する活発な意見が交わされました。

寺脇課長（文部省職業教育課）をはじめ三名のシンポジストは、高齢化社会の進展に伴い、子供の時から自分の自由な時間を大切にし、自分の価値観にしたがって自己実現が図れるよう、時間を自主編成する能力を身につけるべきだと力説されました。

二日目の部会別研究協議では、各部会二名の問題提起者の発表を中心に、活発な意見の交換がなされました。今回は、新たな部会として「国際化

への対応」を設け、十部会で構成しましたが、会場の都合上、各会場が市内広域に分散したため、参加者の皆様には大変御迷惑をおかけいたしましたことをお詫びいたします。

にもかかわらず、各会場とも熱心な協議が続ぎ、今日的課題、各地域のもつ課題について、ある種の方向性が示されたのではないかと思います。

しかし、中には御満足いただける結果に至らず、何らかの疑問を抱えて帰路についた方もおありのことと思えます。そのことについては、各地域の今後の研究協議に委ねることとし、互いに社会教育の発展振興のため努力を期したいと思えます。

三日目の記念講演には、学生時代（千葉大学葉学部）を千葉で過ごされた株式会社「龍角散」の社長、藤井康男氏をお迎えし、「教えることは学ぶこと」と題して、御講演をいただきました。広いステージ狭しとハンドマイク片手に、ある時は黒板を使い、ある時はユーモアを交じえながら、処世訓と人生訓を織りまぜての御講演は、生涯学習、社会教育についての多くの御示唆に富み、今後の活動に大いに参考になったものと思えます。

大会の最後の行事であり、大会宣言決

議においては、学校週五日制が実施され、青少年の学校外活動の一層の充実が重要な課題となる中、「心豊かにたくましく生きる青少年の育成を積極的に推進すること」をはじめとする五項目を採択し、社会教育は生涯学習の中核的役割を担っている今日、その任務を深く自覚し、積極的に努力することを誓い合い、次回開催地の佐賀県社会教育委員連絡協議会宮原会長のあいさつをもって閉会となりました。

最後に、本大会の開催に際し、準備の段階より御指導と御理解をいただいた関係機関はもとより、御多忙にもかかわらず御協力をいただいた総合同会者、シンポジウム関係者、部会司会者、助言者・記録者・運営協力者及び受付・接待・案内等に御協力いただいた関係者、ボランティア活動で支援いただいたガールスカウト連盟の皆様、アトラクションに御出演いただいた合唱団の方々から感謝申し上げます。また、全国各地より御参加いただきました皆様、何かと不行き届きのことが多い中で、大変御苦勞様でした。各地域におかれても生涯学習・社会教育の一層の推進が図られますよう御期待いたします。

大会を終えて感想の一端を申し上げまして、お礼の言葉にかえさせていただきます。

千葉県社会教育委員連絡協議会会長  
第三十四回全国社会教育研究大会  
実行委員長 平津 昭知

# 地区別研究大会を終って

## 北海道地区大会終わる

○日時 平成四年十月一日・二日

○会場 網走市民会館 ほか

○参加者数 七百四名(二四五市町村)

○参加費 三千五百円

(ほか交歓会費四千元)

○研究主題

「人と人をむすび、学びあう社会の創造をめざして」

―学習の輪を広げ、ともに

生きる社会教育を考える―

今大会の大きな特色として、第一部会(生涯学習)の研究テーマを「生死を考える」とし、人間としての生き方、在り方をバズセッション形式で話し合った点にあります。参加者の間では大変好評で、「今後とも、このテーマは継続すべきである。」とのまとめが確認されました。

開会式に先立ち、オホーツクを賛える詩の朗読とスライドの映写により参加意欲の高揚を図るセレモニーにより大会の幕を開けました。

開会式では、主催者として新谷淳治会長が挨拶に立ち、「冬季には流水が語らうオホーツク海を望む網走市に、

## 東北地区研究大会を終えて

爽りの秋の十月中旬、いで湯とくだもの里、阿武隈川河畔に白鳥の飛来する南東北の中心都市、福島県福島市の温泉郷、飯坂町で、平成四年度東北地区社会教育研究大会が今までにない多数の参加者を得て開催されました。以下、大会概要を紹介します。

◇研究主題

「生涯学習社会の形成をめざす社会教育のあり方を考える」

◇期日 平成四年十月十五日(十六日)

◇会場 福島市飯坂町「ホテル聚楽」

◇参加者 六百二十八名

◇参加費 二千五百円(一人当)

◇分科会

第一 社会教育行政

第二 学習情報提供

第三 学社連携

第四 ボランティア育成

第五 地域の活性化

第三分科会の学社連携では、九月から実施された学校週五日制のあり方について話し合われました。特に家庭や地域の役割、家庭・学校・社会の連携等、各県の取り組みについて紹介しあい、熱心な討議がかわされました。

また、記念講演では、昭和四十九年三月に、フィリピン人のルバンダ島より

生還した元日本兵、小野田自然塾長、

小野田寛郎氏をお迎えして、「極限で私を支えたもの」と題して御講演をい

ただきました。終戦も知らず、ルバンダ島で三十年間、なにを信念として生き抜いてこられたか。食べ物や住まいのない中で、どのようにして命を繋いだのか。また、生還後のブラジルでの開拓の様子、また本県塙町の「小野田自然塾」は、日本や世界の明日を担う今の子供達が、将来どのような困難に出会っても、強く生き抜いて生けるよう、その基礎になるものを育てたいと願って、設立したことなど、参加者にとって大変心動かされる一時間三十分でした。

さらに大会宣言文決議では、「生涯学習社会の実現のため、生涯学習審議会答申の四つの課題を踏まえ、社会教育の一層の推進に努めるとともに、社会教育行政計画の充実を図ること」など三項目の大会宣言を採択し、生涯学習推進のため、社会教育が中核的役割を担っていくこと、さらに本大会で決議された宣言文内容を、各県各市町村において、積極的に実践していくことなどをお互いに確認し、来秋山形県での再開を約束して幕を閉じました。

―東北地区社会教育研究大会―  
事務局 渡辺憲一

―北海道社会教育委員連絡協議会―  
事務局 赤坂 正

## 関東甲信越静地区研究大会を終って

十年に一度の当番がめぐってきて、平成四年度関東プロ社会教育委員研究大会を山梨県で開催することになった。

○大会会場 遠方より訪れてくれる人びとの交通や宿泊の便、全体会場、分科会場と思いをめぐらすと、開催地としてまず石和(いさわ)町が浮かんでくる。フルーツと出で湯のまち、歴史のふるさとでもあり、そのうえ県内では生涯学習の先進地で、みずから「スコレー都市・石和」と称している。かくて石和グランドホテルと定めた。

○大会日時 開催期日については九月初旬をねらっていたが「下旬の方が何かと好都合」との地元の人たちの意見により九月二四日(木)二五日(金)にきめる。思えばこの日は夏の台風の最多上陸日にあたっているし、後で気がついたがこの頃は県議会の会期中で議会に關係する来賓は得られなかった。

○研究主題 生涯学習時代がスタートして以来、各位のご尽力によりこれ各地に定着しつつある。一方学校週五日制も九月より実施段階に入った。このときにあたり本研究大会が開かれ、話し合いを深め勉強会をもつことは大変意義深いことと考える。この大会を機に関東一円の生涯学習についてのシステムなりが少しでもレベルアップすることに願いをこめて研究主題を次のように定める。

「幸せに生きるための生涯学習を求めて」、また、サブテーマとして、これからの社会教育はどうあるべきか、をかがげてみた。そのうえで大会第一日の基調提案で、上矢龍男先生から「生涯学習と社会教育のかかわり」が話され多大の反響を呼び、これを基調にして五つの分科会が開かれ熱のこもった話し合いがなされた。

## 東海北陸地区研究大会終る

「第23回東海北陸地区社会教育研究大会」は、人口15万、日本列島の中央部に位置する大垣市で開催した。

大垣市は、交通の要所に恵まれ、戸田藩10万石の城下町を母体に、豊かな地下水に恵まれ、「水を生かし緑を広げ、安全に務め、心を育てよう」という言葉を市民憲章として生涯学習に取り組まれている。

会場となったスイトピアセンターは、既存の文化会館・図書館、平成四年に完成した学習館の三館からなり、広く市民に愛されている会場である。特に学習館は、五年の歳月をかけて完成されたもので、余暇の有効利用・啓発・研修による自己実現、生き甲斐のある生活などを求める市民の多様なニーズに応える文字通り生涯学習の中核施設として利用されている。この大会場を見学して戴くことで、研究主題の一つの目的が達成されたと考ええる。

○期日 平成四年十月二一日〜二二日  
○会場 岐阜県大垣市

○研究主題 生涯学習時代における社会教育の在り方を考える

○参加費 二千円(一人当)

○参加総数 一一八五名

○分科会の構成

第一 生涯学習まわづくり  
第二 人生80年時代の人教育

第三 学校週五日制と青少年の育成  
第四 望ましい家庭教育  
第五 差別のない社会を実現する  
第六 健康で活力ある生活を送る

分科会では各二本の事例発表を中心に討議の視点に沿った研究討議が熱心に行なわれた。

第二日目は、スイトピアセンターの見学と、記念講演は、芭蕉の「奥の細道結びの地」としての大垣市にゆかりのあるお話を、東大教授の森川先生にお願いしたが、残念なことに第二日目は参加者が半数になったことである。最後に大会宣言文を採択して、盛會裏に終了した。関係各位の御協力に感謝し報告とします。

〔岐阜県社会教育委員連絡協議会 事務局長 若園輝夫〕

## 近畿地区研究大会を終えて

厳しい暑さの中、「生涯学習社会を築くための社会教育のあり方」を研究主題として、近畿二府四県から社会教育委員をはじめとして社会教育関係者約千三百名が千年の都・京都に集い、七月三十日(休)・三十一日(金)の両日、平成四年度近畿地区社会教育研究大会が京都岡崎にある京都会館を会場として開催されました。(参加費：二千円)

折しも、国の生涯学習審議会答申が公表され、学校週五日制の実施ともかわって、青少年の学校外活動の充実に向けての課題提起をはじめ、現代的課題に関する学習機会の充実など、今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策が提示されている時、各地域の貴重な問題提起をもとに、研究討議を深めたことは、非常に意義深いことでした。

以下大会概要を紹介します。

▽アトラクション 『合唱』

ドリムコーラス(平均年齢七十

二歳の混声合唱団、百二十名)

▽記念講演

『心の窓を開く』

花園大学学長 盛永 宗興 氏

▽分科会(五分科会)

※ 各分科会では、社会教育委員

の役割を明らかにすることを踏まえながら、各テーマ・討議の視点に即して問題提起及び研究

討議。

・第一分科会 生涯学習1

生涯学習社会づくりの推進

・第二分科会 生涯学習2

地域の活性化

・第三分科会 青少年教育

地域における青少年の健全育成

・第四分科会 高齢者教育

高齢者の生きがいづくり

・第五分科会 同和教育

人権を尊重し差別のない明るい

社会の実現をめざす同和教育

大会の最後に、大会宣言文として、

生涯学習を推進するに当たり、社会教育が中核となって、激動する社会の動

向を見据え、人々の学習ニーズを的確

に把握しつつ、各時期に対応した多様

な学習の場や機会の整備充実を図り、

二十一世紀に向けて、人権尊重を基盤

にし、生涯にわたって生きがいを持つ

る活力あふれる地域社会を実現するた

めに貢献していくことを確認し、閉会

しました。

大会が成功裡に終えることができま

したのは、近畿各府県の大会役員・実

行委員をはじめ多数の方々の御協力の賜

と、心より感謝いたしております。

〔京都府社会教育委員等連絡協議会〕

事務局 吉川博文

## 中国・四国地区研究大会を終えて

「第十五回中国・四国地区社会教育研究大会」が、六月十日〜十一日にかけて「晴れの国おかやま」において盛大に開催され、中国・四国の各県から約七〇〇名の社会教育委員をはじめ関係者が参加した。(参加費、二千五百円)

〔二日目〕

今大会の目玉の一つは、全国的な教

育情報企業が最新設備の整った会場を

快く提供してくれ、メイン会場になっ

たことである。このことは、生涯学習

を今後進めていく上での行政・市民・

企業等の相互理解と連携を模索するた

めにも時宜を得たものであると同時に

に、民間企業の生涯学習への取り組み

の姿勢や現状を多くの参加者に理解し

てもらった絶好の機会でもあった。

本大会の研究主題は「生涯学習社会

の実現をめざした社会教育の在り方」

で、大熊立治大会会長が「目覚ましく

変化し発展する今日の社会にあつて、

人々が豊かで生きがいのある人生を送

るためには、生涯にわたり自ら学び続

け、自己を高めることが必要であり、

社会教育の果たす役割は益々重要にな

り、社会教育関係者に寄せられる期待

は極めて大きなものがある」とあいさ

つした。

続いて、兵庫教育大学教授柴田一先

生による「池田光政と岡山藩」と題し

た記念講演が行われ、先生の明確な論

調と迫力があり、ユーモアのある話術は大いに会場を魅了した。

午後からのシンポジウムは、本大会

の研究主題をテーマに、岡山大学教育

学部教授木原孝博先生の司会で、各県

代表四名により、それぞれの立場から

白熱した議論が展開され、参会者の共

感を得た。

ここで、会場移動の関係から、大会

実行委員山内尚子氏より大会宣言の提

案がなされ、満場一致で採択された。

大会宣言を要約すると、①社会教育

施設・設備の拡充・活用及び社会教育

主事等専門職員の充実確保②差別のな

い社会を実現する教育の積極的な推進

③青少年育成の積極的推進④生涯ス

ポーツの振興⑤家庭や地域の教育力の

高揚を図るための学習や活動の積極的

促進である。

〔二日目〕

会場を移動し、四分科会が開かれた。

各会場とも多くの熱心な参会者で埋

まり、大盛況の分科会で終始した。

来年度開催の愛媛大会での再会を期

し、散会となった。

本大会が大好評のうちに終了した原

動力は、大会参加者の意欲、会場提供

してくれた民間企業、地元関係者の御

協力の賜物と感謝している。

〔岡山県教育庁社会教育課〕

社会教育主事 國塩通雄

# 九州ブロック研究大会を終えて

本大会は、昨年度大分県別府市で開催された九州大会（テーマ：生涯学習の視点に立った社会教育の振興方策を考える）の成果を踏まえ、「生涯学習時代に即応する社会教育のあり方と社会教育委員の役割」をテーマに、活力あるアジアの拠点都市をめざす福岡市で開催されました。

## 一 研究大会の概要

- ①日時 平成四年九月十七日・十八日
- ②会場 福岡市民会館 他
- ③参加費 三、〇〇〇円
- ④参加者数 一、一一三名
- ⑤研究主題

「生涯学習時代に即応する社会教育のあり方と社会教育委員の役割」

## ⑥記念講演

演題「楽しんでます。頑張ってます。」

――生涯学習、官と民――

講師 NHK福岡文化センター長 立林順吾氏

## ⑦分科会の構成

- 第一 生涯学習の推進体制
- 第二 学習機会の提供
- 第三 学習情報提供・相談体制
- 第四 青少年の健全育成
- 第五 同和教育の推進
- 第六 社会教育関係団体の育成

## ①成果

二 成果と反省点  
まず、研究主題にもありますように、

関係者が生涯学習推進のために社会教育の果たす役割を確認できたことです。

次に、分科会の構成が研究主題を考えるために精選されたもので、熱心な討議が展開されたことです。

第三は、記念講演が民間サイドからの提言で、参加者の関心を高めることができたことです。

## ②反省点

まず、事務処理の問題としては、もう少し企画を早めておれば大会の内容充実と役割担当者のゆとりにつながったと思われまます。

次に、大会運営の問題としては、研修会場の分散化による効率的な運営が十分に配慮できなかったことです。

## 三 おわりに

この大会を盛会のうちに終わることができたのも、多数の社会教育関係者の参加はもとより、講演、分科会の役割者並びに大会役員等関係者の方々の御尽力・御努力によるところが大きいと感謝いたしているところです。

次期大会は、吉野ヶ里遺跡でも有名な佐賀県で、全国大会を兼ねて開催されます。ますますの盛会を御期待申し上げます。

福岡県社会教育委員連絡協議会  
事務局 西田 悟

# 大会宣言

私たち全国の社会教育委員をはじめ、社会教育関係者が、本年四月に全国第十二番目の政令指定都市となったこの千葉市において一堂に集い、「新しい課題に対応する社会教育の在り方を考える」を研究主題として、第三十四回全国社会教育研究大会を開催した。

国においていわゆる「生涯学習振興法」が制定されて以来、国や各地方公共団体における生涯学習推進体制の整備が促進されつつあるとき、本年七月には国の生涯学習審議会の初の本格答申が公表されるなど、生涯学習の振興方策が図られてきた。一方、毎月第二土曜日を休業日とする学校週五日制が九月から実施され、青少年の学校外活動の一層の充実が、社会教育の重要な課題となっている。

このような状況の中で、私たちは、生涯学習の観点に立つて社会教育の今日的課題の解決のために、各地域における活動状況や研究成果を交流し、研究協議を深めた。そして、生涯学習時代の今日、社会教育の振興のためには、家庭、地域社会、学校、企業、生涯学習関係団体や行政がその役割を適切に果たすとともに、相互の連携・協力を強化する必要があることを確認した。

社会教育が果たす役割は従来にも増して増大しており、しかも、社会教育は生涯学習の中核的役割を担っている今日、私たちは、その任務を深く自覚し、積極的に努力することを誓い合うとともに、本大会の総意を持って、次の事項の早期実現を期する。

- 一 人権を尊重し、差別のない明るい社会を実現するための教育を積極的に推進すること。
- 一 心豊かにたくましく生きる青少年の育成を積極的に推進すること。
- 一 人々の多様で高度な学習活動を支援するため、生涯学習関連施設・設備の拡充及び派遣社会教育主事を含めた専門的指導者の充実・確保を図ること。
- 一 新しい課題に対応する社会教育を推進するため、社会教育関係法の整備を図ること。
- 一 社会教育を積極的に推進するため、財政基盤の確立を図ること。

平成四年十一月十三日

第三十四回全国社会教育研究大会

## 第35回全国大会開催地

## 「人と自然と文化の交響県・佐賀」へぜひ！

平成五年度の全国社会教育研究大会〔佐賀大会〕を、十月十三日～十五日に開催させていただくことになり、全国の社会教育関係者の皆様方にできるだけ多く参加していただくため、現在着々と準備を進めているところです。そこで、今回開催地佐賀県のご紹介をしたいと思います。

## ◆「自然と歴史の地」佐賀◆

佐賀県は人口八十七万七千人、福岡県・長崎県に接する九州西北部に位置し、北に玄海灘を南には有明海を臨む地にあります。

自然環境は、北部に八百～千メートルの山々が連なる筑紫山地を有し、そこより広がる肥沃な佐賀平野は我が国多数の穀倉地帯として有名です。

県西北部の東松浦半島には、豊かな海の恵みを求めて多くの漁港が点在し、年間を通じて各種の魚介類が水揚げされており、また干満の差の大きい有明海には広大な干潟が広がり、生産高全国一、二位を誇る海苔の養殖が行われています。

このように自然の恵み豊かな、年間平均気温十六度と大変過ごしやすい土地柄でもあります。また、その地理的条件により大陸と

の交流も古くから行われ、「吉野ヶ里遺跡」に代表されるように、それを物語る歴史的文化財が多く残っています。

古くは律令時代より明治時代に至るまで「肥前國」と呼ばれ、特に藩政時代は「葉隠」武士道を重んじる質実剛健の土地柄として名を馳せました。さらに、維新を迎えると新時代のリーダー「薩・長・肥」の西南雄藩に名を連ね、近代司法の基礎をつくった江藤新平、後の早稲田大学創立者大隈重信、外務卿副島種臣など明治新政府の指導者をはじめとして、北海道開拓の功労者島義勇等々の人材を輩出し、県民の誇りとなっています。

## ◆「さが新時代」の実現へ向けて◆

21世紀も間近となった今日、国際化、情報化、高齢化など社会経済の急速な変化のなかで、本県では佐賀の持つ優れた特性や発展の可能性を最大限に活用した「住みたい県日本一」を目標に「さが新時代」づくり重要事業推進計画」を策定し、ゆとりとうるおいのある真に豊かでしあわせな県民生活を目指したふるさとづくりを進めています。この計画では、「佐賀空港」「九州新幹線」「西九州自動車道」の整備を推進し全国の高速交通網とのネットワーク

クの強化を図っています。

また、自然・歴史・文化など豊かな資源を生かした「歴史と自然のパノラマさがリゾート構想」により、魅力ある観光地づくりも具体化しています。同時に、すべての基本は「人」にあるとらえ、教育、学術・文化、産業等各分野における「人づくり」にも力を注いでおり、生涯学習の中核となる「生涯学習センター」の建設計画も現在急ピッチで進んでおります。

さらに、県民が「いつでも、どこでも、だれでも」学べる生涯学習社会の実現を目指し、  
①主体的・創造的で心豊かな人づくり  
②豊かで活力とうるおいのある「学習社会づくり」  
を基本目標とした「佐賀県生涯学習基本構想」（平成三年十二月策定）を受けて、生涯学習推進のための基本方針や具体的施策が明確化され、現在取り組みを開始しているところです。

## ◆全国社会教育研究大会への期待◆

全国社会教育研究大会を本県で開催するにあたり、県下の社会教育委員のみならず、すべての社会教育関係者が大会に向け、一丸となって体制づくりを進めています。

これを機会に、全国各地の優れた社会教育実践の状況を知ることができるようでなく、本県の実践状況を全国の皆様に披露することにより、本県社会教育の大幅なレベルアップにつながるものと期待しております。

## ◆たくさんあります！ 特産品◆

海の幸、山の幸に恵まれた佐賀県には、古くから多くの品々が生産されてきました。

有明海の上質の海苔をはじめとして、ムツゴロウ、ウミタケ、ワラスボ、タイラギ等の珍味や玄海灘の荒波に育まれた各種の魚介類の味は、一度口にすると忘れられないほど格別なものです。また豊富な素材を利用した銘菓、羊羹の他「佐賀牛」と呼ばれる牛肉も最近人気のある物産の一つに数えられるようになりました。

さらに、「古伊万里」に代表される焼き物も古くから有名で、有田、伊万里、唐津をはじめとして県内には多くの窯元があります。

観光地としては、日本三大松原のひとつ唐津の「虹の松原」や武雄、嬉野、古湯などの温泉地があり一年を通じて賑わいをみせています。

終わりにになりましたが、このような佐賀の地へ是非ともお出でいただきませう、皆様の御参加を心よりお待ちしております。

（佐賀県教育庁社会教育課  
社教連事務局）

# 事務局だより

## ▼平成4年度第2回総会終る

平成4年度第2回目の総会が第34回全国大会（千葉大会）の第一日目に次の通り開催されました。

日時 平成4年11月11日(水)

16・30～17・30

会場 千葉県文化会館

第1・2会議室

総会は定刻に司会者より開会を宣し、

本総会は定款第24条により定足数（純正会員数60名中出席者53名）を満たし成立する旨を告げ、まず天城会長の挨拶があり、次に平津第34回全国大会実行委員長より全国大会開催についての各県のご協力に対してお礼の挨拶があった。

ひきつづき議長の選任を行い鈴木完一福島県会長を選出し、議事録署名人として片居木清一埼玉県会長と落合勝雄茨城県会長を指名して議事に入った。

## 議事

第1号議案 第35回（平成5年度）全国大会開催について

宮原久佐賀県会長より開催要項案について説明があり、期日は平成5年10月13、14日、15日の3日間、佐賀市文化会館において開催したい旨発表があり、満場一致で承認、可決された。

第2号議案 第36回（平成6年度）全国大会開催地区（ブロック）について

長田事務局長より資料にもとづいて説明し、第36回全国大会の開催地区は東北地区になる旨発表した結果、全員異議なく承認された。

## ▼県の社教連会長に就任

- 佐藤信一氏 山形県
- 落合勝雄氏 茨城県
- 秋山一夫氏 栃木県
- 松谷照夫氏 愛媛県
- 志賀清己氏 大分県

## ▼平成5年度 地区別開催

平成5年度の地区別（ブロック別）の社会教育研究大会の開催県、開催期日、会場が次の通り決定しました。

- 北海道地区——虻田郡留寿都村  
期日 平成5年9月28日・29日  
会場 ルスツリゾートホテル
- 東北地区——山形県  
期日 平成5年9月28日・29日  
会場 上ノ山市 上ノ山温泉
- 関東甲信越静地区——神奈川県  
期日 平成5年9月9日・10日  
会場 横浜市 県民ホール
- 東海北陸地区——愛知県  
期日 平成5年10月28日・29日  
会場 豊橋市 勤労福祉会館
- 近畿地区——滋賀県  
期日 平成5年7月15日・16日  
会場 大津市民会館
- 中国・四国地区——愛媛県

期日 平成5年7月20日・21日  
会場 愛媛県 県民文化会館  
指定都市——神戸市  
期日 平成5年5月26日・27日  
会場 神戸市 六甲荘

九州地区は全国大会（佐賀県）と合併して開催する。

## ▼機関誌「社教情報」第28号発行

全国の社会教育委員を結ぶ唯一の機関誌であります「社教情報」第28号（A5判64頁・頒価二五〇円）が2月下旬に発行します。年2回の発行ですが、好評で、全国各地の社会教育委員の交流と研修の糧として、ぜひ御愛読下さいますようお願いいたします。

## 第28号の主な内容

- 特集・地域における社会教育活動
- ◆論文—日常生活圏域における生涯学習推進のための社会教育活動  
埼玉県教育委員会生涯学習課長 村田文生
- ◆解説—日常生活圏、広域生活圏における学習ボランティアの役割  
大正大学教授 蛭田道春
- ◆誌上講座—コミュニティづくりにも果たす社会教育委員の役割  
群馬県社会教育委員 塩谷 博
- ◆実践事例として北海道北見市、岐阜県大垣市、三重県鈴鹿市、山口県山口市、高知県香我美町の社会教育委員等がそれぞれ担当執筆。
- ◆ヨーロッパ視察記◆随想◆レポート◆思考と提言等

## 〈実践社会教育シリーズ〉好評発売中

### 企業と生涯学習

湯上二郎 編 1,030円 〒210

### 女性の生涯学習

志熊敦子 編 1,030円 〒210

### 生涯教育の理念と方法

森 隆夫 編 1,030円 〒210

### 地域振興と生涯学習

日高幸男・渡辺博史 編 1,200円 〒260

### 生涯学習を振興するための行政

井内慶次郎 編 1,450円 〒260

### 財団法人 全日本社会教育連合会

〒100 東京都千代田区霞が関3-2-3国立教育会館内  
TEL 03-3580-0608, 2869・振替(東京)0-178735